



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成25年度 第2号
(平成26年3月発行)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
野地勝彰

ますます盛んな同窓会活動

同窓会長 野地勝彰(二十四回生)

おおぜいの会員皆様の絶大なご協力により、今年度も活発な活動を行うことができました。活動の原資は皆様の会費納入とご寄付ですので、厚く感謝申し上げますとともにこれからもよろしくお願い申し上げます。

今年度は、例年通りの地域イベントへの協賛や同窓会文庫、もちつきのお手伝いなど学校への協力に加え、二宮金次郎像を修復しました。皆様のご記憶にある像は台座から本体が切り離されて保管されていましたが、北側校舎脇に復元致しました。詳しくは別稿をご覧ください。

それから校庭にある朝礼台の板が古くて一部破損してしまいましたので、同窓会員のご厚意により全面張替えしました。また卒業生への「三年日記帳」贈呈、四月の新生入生への「縄跳びの縄」贈呈は昨年引き続き実施して参ります。

同窓会内部としては同窓会会則の改定を準備中です。現会則の不十分な箇所を、使い勝手のよいように改定するもので、四月の総会で提案する予定です。また次回総会では、同窓会の誇る二十二回生、張富士夫トヨタ名誉会長並びに日本体育協会会長にご講演をお願いすることができました。別項をご覧の上、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

さて別稿にありますように、東大原小学校はまず守山と統合され平成二十八年四月から新しい校名でスタートすることになりました。新校舎が東大原小学校の現在地に建築されます。同窓会活動を統合後どう継続して行くのかなど今後検討する課題はたくさんあります。まず私達の今までの活動で残してきたものは新校に是非継承して欲しいと思っています。三校の歴史や同窓会活動の歴史資料を展示するメモリアルルーム

の設置は当然のこととして、修復された二宮金次郎像、東大原創立八十周年記念でPTAとともに贈呈した陶芸釜、現在の正門横にある同窓会掲示板、これらは新校名、新校舎になっても受け継がれて行って欲しいと思っています。今後しばらくは新校設計準備と新校舎設計についての検討期間になりますので、上記のことなど行政機関に要望することも出てくると思います。皆様のお知恵を拝借しながら進めて参ります。



野地会長

これからも同窓会は課題に対処しながら活発に活動して参りますので引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成二十六年定例総会のお知らせ

四月十三日(日)同窓会総会が開催されます。

あと二年で学校統合を迎え校名が変わることもあり、今年は何か大きなイベントにしたいと考え、偉大なる先輩トヨタ自動車名誉会長の張富士夫さん(二十二回生)をお招きして講演をして頂くことになりました。張さんはトヨタ自動車のお仕事ばかりでなく日本経団連の副会長、内閣の教育再生会議委員等々沢山のお仕事を歴任され、現在も日中経済協会の会長として中国との交流に力をつくされ、また日本体育協会の会長としてオリンピックの招致や準備に現役で活躍されています。皆さま奮って大先輩の講演会にご参加ください。

日時 平成二十六年四月十三日(日)三時から五時半まで
場所 母校体育館 なお講演会は三時四十分からです。終了後会費千円の懇親会もあります。

二宮金次郎に就いて

「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」この言葉は江戸時代の末期、農政の専門家として活躍した二宮尊徳（幼名金次郎）の「道徳経済一元論」にあります。二宮尊徳は、当時の道学者の、理念ばかり立派な教えを排し、人間の経済的に豊かになろうという気持ちをはと、道徳と実利は車の両輪で、この二つなくして善の循環は継続しないと、本音で人々に説き実践した人です。

この言葉をいま高度に進んだ資本主義の中で、お金の亡者と化し、道徳を忘れて世界を騒がせている金融フアンドの人達に、もう一度味わってほしいものです。

アメリカのケネディ大統領やイギリスのサッチャー首相は英語で出版された内村鑑三の「代表的日本人」を読み、二宮尊徳の経済改革の思想を尊敬し指標としていたと伝えられています。

むかし私たちが小学生のころ、二宮金次郎の銅像や石像はこの小学校にも見られました。それはなぜだったのでしょうか。「人は生れて学ばなければ、生まれないのと同じだ。」



27回生青井先生と



34回生一年記念撮影



倉庫の二宮金次郎像

貧しい農民の救済に生涯をささげた二宮尊徳の少年時代の勉学の姿こそ、小学校の校庭にふさわしいと考えられ、薪を背負いながら読書する二宮金次郎の像が建てられたのだと思います。

今回修復に当たり二宮金次郎の像がいつ建てられたのか、いつ撤去されたのかを調査しました。

残念ながらまだ分かっていません。誰がいつ頃建てたのか、誰がどうして撤去したのかをご存じの方がいらつしやいましたら是非同窓会のホームページ掲示板か同窓会事務局（FAX 03-5454-5356）へご連絡ください。

東大原小学校の二宮金次郎は戦争前から有りました。たぶん地域の方に昭和十年前後に寄贈していただいたものと思います。その後戦争になり全国の小学校にあった二宮金次郎の銅像はそのほとんどが戦時供出物資として供出され、石像のみが残って戦後を迎えたそうです。戦後GHQを慮って、奉安殿などは自主的に破壊撤去されたのですが、二宮金次郎の像はアメリカ側の二宮尊徳への高い評価があつたため、殆ど撤去されずに残ったようです。GHQのインボorden少佐は昭和二年雑誌『青年』に「新生日本は尊徳の再認識を必要とする」という論文を発表、二宮尊徳を日本の生んだ最大の民主主義者だと称賛しました。戦後発行された一円札の絵

柄が二宮尊徳だったのをご記憶の方もいらつしやるでしょう。

そうやって戦争を潜り抜けた二宮金次郎像は学校正面にあった築山から戦後もわれわれ同窓生を見守り続けていきましたが、昭和五二年、築山を解体し新たに岩石園を増設した際に取り払われたようです。昭和五二年の三月に卒業した五十回生の方がその存在を覚えていました。

どうしてなのでしょう。我々が発見した倉庫の中の二宮金次郎は無惨にも首が切られ、足がすねの部分で切られ胴体と全部で四つにわかれていました。

そんなことも原因しているのでしょうか、嘘か本当かわかりませんが、東大原小学校の生徒たちの間で、今足首だけが立っている石像のあたりは幽霊が出るという怪談もあるそうです。

学校統合が平成二八年と迫る今、この像を修復してきちんと学校に立てておかないで「私達同窓生が懐かしんでいる二宮金次郎像は永遠になくなってしまおう」という危機感の元、本年度になって同窓会が中心となり学校との話し合いがもたれ、修復することが決まり、同窓生の知り合いの株式会社制作美術研究所に、切断されている像の一体化を依頼、一二月一日に写真の様な姿に修復されました。

これで怪談もなくなり、子供たちの何人かは「二宮金次郎ってどんなひとなんだろう？」と思ってくれると思います。今世界に誇れる経済人二宮金次郎尊徳を見直す時期なのだと思います。（編集部会）



修復二宮金次郎像

学校統合に就いて

私達の地域の小学校は、地域の人口の増大と就学児童数の増加に伴って第三荏原小学校が出来、それが東大原小学校となり守山小学校が出来、また北沢小学校が出来て今日に至っています。しかし現代は少子高齢化の時代、昔は一学年で四クラス以上あった学級も一クラスの編成がやっという時代になりました。人口の少ない地域等で学校の統合が行われ、廃校が増えているというニュースを他校統合同の波が来りました。

あまりにも少ない一クラス学級では、集団生活を学ぶ場でもある教育に支障がある、学校インフラを維持するためには一定の先生数や設備などの固定費が発生するが、人数が余りに少ない学校ではその効率が悪すぎる、学校の建屋自体が老朽化してきて、全部の小学校を建て替えるには膨大なお金がかかる等々、いろいろな理由があるようです。

学校からのお話もあり同窓会では一貫してこの話に関心を持ち意見交換会などにも出席させていただきました。意見交換会は各地で何回か開かれ、聞くところではいろいろな意見の個人がいろいろな意見を言っただけで意見交換が地域と教育委員会の間であったようですが、平成二五年九月に、基本計画が決定しました。この場を借りて同窓生の皆さまにその概要と同窓会として世田谷区にお願いしていることを述べさせていただきます。

●平成二十八年四月には東大原小学校と守山小学校は統合され、新しい学校名の小学校になります。

●新しい学校は平成三十年の四月に、現在の東大原小学校の跡地に建設されます。現在の校舎の解体は平成二十八年四月に始まり

ます。

●新しい小学校の生徒たちは平成二八年四月に守山小学校の校舎に移動し、必要なら仮設校舎も建てられ、そこで平成二十九年三月までの授業が行われます。

●新しい学校の名称、校章、校歌など具体的な事は地域の方々を中心とする新校準備会が設立され、其の場で検討され、決定される予定です。

●北沢小学校は、通学の問題もあり、当面は少人数でもユニークな教育が出来る小学校を目指して平成二八年以降十年間努力して継続運営を目指します。十年後の結果で判断が行われ、統合新校に再統合するかどうかは決定されます。

私たち同窓会では、母校が無くなってしまふという現実には、さびしい思いをしておりますが、統合自体は時代の流れで仕方がないことと考えており、今より一層優れた教育環境がこの地域に立ち上がることを望んで協力していこうと考えています。

そして同窓生のさびしい気持ちを代弁して、新しく出来る学校の建物にはぜひきちんとした「メモリアルルーム」を設けていただき、守山小学校や東大原小学校の歴史や記念の資料などが展示でき、同窓生が集まって、会議や集会が出来る様にしてほしいということを、世田谷区教育委員会には強くお願いしているところです。(編集部会)

守山小学校の跡地の利用について

平成二五年十二月十日、世田谷区教育委員会学校適正配置担当課の主催で「守山小学校の跡地の利用」を考える会が守山小学校のランチルームで開かれました。最初に会の目的の説明が世田谷区側からあり、その後、希望して集まった人達が六人くらいの少人数の

グループに分かれ、討論し、それをグループごとにまとめて発表するというユニークな検討会でした。同窓会からも地域の一員として代表が参加しました。

このプロジェクトは学校統合のプロジェクトと表裏一体のもので、例えばこの地域で守山小学校が無くなってしまったらどんなことが予想されるかというテーマでも議論しました。地震や火災等の災害時の集まる場所が無くなるか、投票をする手近な場所が無くなるか、地域の子供や住民が集まって楽しむ広場がなくなるとかいろいろ意見が出ました。

またどんな場所にしたかというテーマでは、少子化で児童数が減って無くなった代わりに、高齢化で増加する高齢者のための場所を作ってほしい、障害を持つ方の施設を地域に造って欲しい、今の教室や体育館を残し、地域の住民が、運動や生涯学習に自由に運営使用できる場所をいくつも残してほしいなどという意見が出ました。

今後何回かこのような議論を繰り返して、今の守山小学校の建物は残して、そこを有効利用するのか、それとも老朽化もしているのか、全面的に建て替えるのか、一部は建て直し、一部は今の建屋を残す併用方式とするのかなどが決まっていくなかと思えます。(編集部会)

同窓会の活動

同窓会文庫は平成二五年度は二回に分けて合計六三冊の本を寄贈しました。これまで東大原小学校で図書を担当なさっている河村先生のニーズを良くお聞きして選定してきました。今年四月でお世話になった河村先生が交代なさるといので、原稿を頂きました。(編集部会)

同窓会文庫と図書館

河村 豊子

二人の息子がお世話になった東大原小学校で、七年間、図書室のお手伝いをさせていただきました。図書館が大好きで本に囲まれているだけで幸せな上に、子どもたちの明るい声や笑顔に包まれて本当に楽しい時間でした。子どもたちには読書をする喜びを身につけて欲しいと思います。ゲームなど遊びも昔と変わりました。情報もネットで簡単に答えが得られるようになりました。だからこそ想像力を培い自分の心と向き合える読書の必要性を感じます。是非たくさんの本を読んで素敵な人になって欲しいと思います。

同窓会との繋がりは数年前になります。図書室の本が何らかの事情で紛失してしまうことがあり、読みたい子に渡せず残念に思っていたところ、同窓会に本の補充をお願いできることとなったのです。そして新しい本も買っていただけ同窓会文庫が始まりました。以来年二回、同窓会の方が選書の打ち合わせにいらして下さるのが楽しみでした。学校予算で買う本より、少し遊び心があつたり、背伸びをしていたり、でも是非子どもたちに読んで欲しい本を選んでいただきました。本棚も入れていただき東大原の歴史が分る同総会資料も配架し、同窓生と繋がりの深い方の著書やサイン本など年々充実しています。どうぞ、お立ち寄り下さい。(図書補助)

「アートでつなぐプロジェクト東大原」協賛

三十三回生 益井 純子

平成二五年十一月一七日(日)、母校東大原小学校の体育館で地域の子どもから大人までが一堂に会し文化に親しむ催し「びりとブッチィーのクラウニングシアター」が開催され、同窓会からも多くの方々にご参加いた

き、子どもたちとひとつになって本格的クラウン二人による素晴らしいパントマイム・楽器演奏等を楽しみむことができました。笑いあり涙あり、老若男女、小さな赤ちゃんまで心の底から笑いがこみあげてくるそんな空間を共有することができました。

当日は、七五三や地域の行事等と重なったため人出が心配されましたが、朝からの上天気もあり用意したイスが足りずに増やしたほどの大盛況で、あつという間の七〇分でした。また、ショーが終わった後にクラウン二人と子どもたちが触れ合う場面や見送りもあり子どもたちも大喜びでした。



びりとブッチィー

このアートでつなぐプロジェクト東大原は、世田谷区地域の絆推進事業の補助を受け、「子ども育成には文化芸術が大事」との思いから母校東大原小学校で一年に一回、地域のさまざまな団体と協力して開催しているものです。今年で四回目になり、このような体験ができる幸せを感じています。同窓会からは毎年協賛金をいただいています。また、母校正門右横の同窓会掲示板へのポスター掲示や、同窓会ホームページにも大きく取り上げていただくなど多大なご協力をいただいています。今後もこのような活動を継続してまいりますので同窓会の皆様のご支援をよろしく願っています。最後に、子どもたちが、このような取り組みを通じて「舞台って楽しいな」と思い、「生きる力」までも得てくれたらとても嬉しいです。

三年日記の寄贈

同窓会では昨年から三月に母校を卒業する新入同窓会員の皆様に卒業と会員加入をお祝いする記念品として、(株)デザインファイルミドリカンパニー製の三年連用日記『幾歳月』を贈っています。今年も三月には卒業する全員分、四九冊を贈ります。



IT時代に手書き日記帳なんてと言う声もありますが、受け取った何人かでも、一日に少しでもその日を振り返り、心静かにペンで日記を書くそんな中学生になるきっかけになってくれればと思っています。(編集部会)

渉外部会の活動

渉外担当 三十三回生 神谷 良男

同窓会には渉外部会と言う組織があります。学校統合で変わりつつある東大原小学校、PTA、地域の皆さま、商店街などと連携して色々な企画を実施しています。御紹介します。

縄跳びの縄の寄贈

いま母校では子どもたちの健康と体力向上に力を注いでいます。同窓会では昨年商店街のすずらん堂さんのご協力を頂き、新入小学生対象に縄跳びの縄を寄贈しています。今年も三月には百本前後の寄贈を行う予定です。

子供一〇番への協力

子供が安心して歩ける街づくりを願って、「この家には、子供に何か危険がせまったら駆けこんできていいよ」というポスターを家の前に貼る活動に協力しています。同窓会の役員有志の方々が自宅に貼っています。

親睦旅行

毎年秋には同窓会の親睦旅行を実施しています。昨年は十月に箱根に一泊二日で行きました。今回は土日で計画したせいもあり参加者が少なかつたですが、次回にはPTAやおやじの会等学校関係の方々にも声をかけて、コミュニケーションを図ろうと思います。



箱根親睦旅行

餅つき協賛

その他昨年一二月に行われた恒例の校庭開放委員会主催の餅つきやくるみ学級での餅つきにも協賛し、力持ちの同窓生が参加しています。



校庭餅つき

クラス会だより

ホームページ掲示板より

長年同窓会活動を支え、昨年まで四年間同窓会会長を勤められた宮川英子参与は、十三回卒業の同窓生であるとともに昭和二十三年から十三年間母校の教員を勤められた先生でもあります。毎年教え子たちがクラス会をするたびに呼ばれているそうですが、今年は先生が同窓会会長を退かれたということもあっていくつもの会が持たれたそうです。宮川参与にお願いしてそれぞれの写真を載せさせていただきます、ホームページ掲示板への投稿テキストを転載させていただきます。(編集部)

昨年も東大原小学校とともに学んだ方々とお会いする機会が何回かありました。

五月二十五日は二六回生六年一組の会、英級会。十人の出席でした。以前は毎年開いていましたが、最近は二年ごとになりました。会場は三軒茶屋のキャロットタワーのレストランです。次回は二年後、担任の宮川が八歳の米寿を迎える年に会って頂けることになりました。



26回生の会

六月六日には私達十三回生の同期会が下北沢の栄鮎でありました。本年八十六歳になった仲間たちです。十六名が集まりました。六月十五日は三四回生六年三組の会、



34回生の会



13回生の会

山紫会。代田のレストランで十三人出席。しばらくぶりの出席の方もいて、楽しい会となりました。宮川の同窓会会長退任のお祝いに花束とプレゼントが贈呈されました。十一月に一泊旅行をしようと約束しました。

六月二七日は同級会ではないのですが、東大原小学校の旧職員が集まりがありました。第七代九枝松英校長先生時代の教師たちが集

『八一歳の思い出』発行 十八回生 堀江 照彦
男子二組。我々は昭和一四年四月に第三荏原小学校に入学しその後東大原国民学校と名を変えた。女子とは別組で男子二クラス、女子二クラス、男女混成一クラスの計五クラスだった。担任は一年から三年までは外山寛先生でギョロメで顔がでっかい音楽の先生だった。四年生の一年間が駆逐艦に乗って亡くなった熱血漢の松本博先生、そして五年から六年がまじめで厳しい青井勝太郎先生だった。転入、転出もあったし、学童疎開もあったが、クラスの総入れ替えは六年間なかったので皆の結束は固かった。卒業後は同期の仲間を含めて、男子二組の集まりは故三岡達司君を中心に続いた。でも次第に間隔が空き・・・戦争、疎開、敗戦、復興、そしてそれぞれの生活があり、今や八十歳から八一歳。



大原会



平成二五年十月に住所のわかつている仲間と連絡をとり、綴り方や写真を集めることにした。十数名の内、七人が集まり、横浜の中華

街で食事をした。七十年前のことも卒業後のことも記憶が薄れてしまつて、うまいストーリーの編集にならない。それでも各人の想い出と古い写真を集め、そのまま並べて、簾君が一冊に押し込んだ。女子組マドンナから提供された写真も入っている。感謝！

この冊子を見ての感想や「そういえばあの時は・・・」というような思い出や写真などを堀江宛に送つてくれれば、ある程度集まつた時点でまとめて再版を検討することも考えている。

なおこの冊子を見てみたい方は下記へ御一報ください。実費・送料を負担いただければ印刷・製本をしてお送りいたします。

堀江照彦 千一五五・〇〇三一 世田谷区北沢四一四・一七

メール horieteru@aol.com
電話 03-3467-6936

二六会旅行

昭和二十六年卒業の六年一組クラス会では毎年一泊の旅行をしています。

恩師富澤交子先生は初めての教員生活を私達の担任でスタートされ六年までクラス替えのないまま担任を続けられ卒業と同時に結婚退職されましたので、教え子は私達だけとなり毎年のクラス会を楽しみにしておられました。残念なことに先生は平成十五年に他界されましたが、クラス会はその後も先生を偲んで続けられています。

今回は昨年十一月に川治温泉に行きました。男性六人、女性三人の少ない参加でしたが池袋から旅館送迎バスで到着、大食堂での夕食を満喫、また屋上展望露天風呂から鬼怒川越しに見た紅葉はまるで色とりどりのパレットのような景観でした。翌日は河原と付近の散策と旅館の近くで買い物、ランチを楽

しんで午後のバスで池袋に戻りました。

毎年計画してくださる幹事の田中さん、名児耶さん、秦さんがいらつしやるのでこの会が続けられています。場所の選定とか安い会費での計画などご苦労も多いことと思いますが感謝するとともにこれからもよろしくお願いいたします。

変わっていないな、そのしぐさ、

イントネーション

東大原小学校六年三組の会

二十九回生 山口 健司

今年も年賀状を書く季節になってきました。十二月は、忘年会と称して幹事会(?)を開きます。題して「古希を祝う会反省会」です。ある程度酔いが回つてきて「お開き」になる頃、「来年もやろうや」で散会になるのが第一回目の幹事会です。

さて、今年(二〇一三年度)は、「古希を祝う会」と言う事で開催いたしました。識者いわく、「古希を祝うとは、数えの七〇歳を言うので、全員がその対象になるんだ」と言われて、「私はまだ満七十歳になっていない」と喜んでいた参加者は「そうだったの」でチョン。

毎回六年三組のクラス会にさりげなく、壁際にポスターが貼られています。会を盛り上げるのに一役買っています。「古希を祝う会おめでとう。誰もが元気で会えること、最高です。」

今回は、九月二十七日(金)十二時三十分から新宿三井ビル五四階の個室において、一八名の参加で開催いたしました。当日を前にして、血圧が高くてとか海外旅行や既に行事が重なっているなどの理由で六名が参加できませんでしたが担任の樋口慶子先生にも是非参加していただきたいと御案内いたしました。御都合が悪く欠席されました。

当日は快晴で、五四階からの展望は最高でした。新宿の街並みが整然として立ち並び、その



29回生の会

下で多くの方々が苦勞しながら一生懸命に働いているんだな」と感じた瞬間でした。わたし達は、美味しい食事をしながら、近況報告をそれとなく聞き、あちこちでの語らいと笑いが溢れる楽しい二時間三〇分を過ごしました。別れる前に、全員の集合写真を撮影し、同じフロアにある、COFFEE喫茶に移動して引き続き話したりない空間を過ごしました。お体を大切に、元気で又お会いしましょう。

山紫会クラス会旅行

三十四回生 大岡 雅子(旧姓細谷)

私たち昭和三六年卒業の六年三組宮川クラスは、その卒業回に因んで「山紫会」と名付けられました。

卒業してしばらく開かれていたクラス会も、社会人になった頃から途絶えてしまい、平成五年に約二十五年ぶりに山紫会は復活しました。

その後何回かクラス会を開いていましたが、平成二十一年に宮川先生が同窓会の会長になられたのをきっかけに、クラスの中の斎藤、漆畑、大岡の三名が、少しでも先生のお力になろうと、同窓会のお仕事をお手伝いさせていただくことになりました。

それから四年、昨年の総会を以て宮川先生が会長の任を退かれたので、お疲れさまのクラス会を開こうということになり、六月一日、下北沢駅西口の「湘南倶楽部」に一三名が集まりました。久しぶりに参加した方もいる中、あつという間に昔にタイムスリップ、楽しい時間を過ごしました。その時に「今度は旅行に行きたいね」という話になり、強引に日程を決めました。

有言実行、一月三〇日から一泊で伊豆山にある日経の保養所に十名でお邪魔することになりました。当日は素晴らしいお天気に恵まれ、斎藤氏と小山田氏の車二台に分乗して、いざ出発。空は青く澄み、車窓から眺める紅葉もきれいで、車内ではおしゃべりに花が咲きました。この年になって初めて知った「あの時の真実」にびっくり。それは宮川先生が私たちの卒業のすぐ後にお子様を産んでいらしたということでした。ということは卒業式の時はお腹が大きかったの？ そういえば卒業式の時、先生は羽織袴でした。でもその

ころはお腹に赤ちゃんがいる、なんてことにはおよそ思いが行かない年頃だったのでしょね。六五才になって知ったことに驚きを覚えませんでした。

そんな斎藤車と小山田車は、携帯があるから何の心配もないと二台で行ったのですが、紆余曲折あり、思いもかけない道中になりました。なにはともあれ、無事に現地に到着。保養所は熱海湾を望む高台にあり、大浴場からの眺めは素晴らしいものでした。

夕食は品数もお味もすばらしく、偶然にも前日が先生の八六歳の誕生日だということのでワインで乾杯、お祝いしました。食後は大広間でのカラオケ三昧、先生の美声はもちろん、みんなで歌声を競い合いました。

その後さらに何人かは男子部屋で飲むしやべるわで、みんなすつかり出来上がってしまいました。

翌日もいい天気恵まれ、名古屋に向かわれる先生を熱海駅までお送りし、一路北沢をめざし出発。

二台別々のルートを取りながらも無事に下北沢に着きました。

今回の旅行中、宮川先生が「私は幸せよ」と何回もおっしゃいました。

最近では先生との年齢差がどんどん縮まっていますと感じていますが、先生が満面の笑みでその言葉をおっしゃるのを伺って私も幸せな気持ちになりました。



34回生の会

私たちクラスメイトは先生にあやかれるよ、これからの人生を楽しく元気で過ごしたいものです。次回の旅行がさらに楽しみになりました

編集後記

例年の様に会報第二号は同窓会総会のご案内が一番の目的です。今回は私達同窓生の中で七十五歳を超えても東奔西走して日本の為に働いている、驚異的な先輩、張富士夫さんを講演会講師にお迎えすることが出来ました。なるべく多くの同窓生や地域の皆さまが講演会だけでも聞きに来て下さるよう願っています。講演会だけ参加の方は三時半までに校庭体育館前に集合ください。

同窓会への連絡、問い合わせ、寄稿の送付、送金の方法について

同窓会の事務所の所在地は会則で「東大原小学校」となっております。

しかし現状では、学校内で事務を行うことが学校管理上の理由で出来ません。会員各位にはこの点でご不便をおかけします。

現在の事務所の住所は左記のとおりです。連絡は郵便かFAXでこちらにお願いいたします。

郵便番号 一五五・〇〇三一
世田谷区北沢二丁目三五・九
清水ビル5F
東大原小学校同窓会事務局
FAX 03,5454,5356

本同窓会は政治・宗教・思想について中立を守ります。

平成25年2月から平成26年1月末までの間に会費・寄付を頂いた方々(数字は卒業回数、Tは学校関係者)

8	長谷川	きぬ子	15	高岩	見谷	澤	永	21	春	日	ふ	26	赤	津	信	28	新	居	成	夫	31	中	田	清	子	35	加	瀬	茂	代
10	谷口	恵美	15	岩伊	谷藤	緑	士	21	石小	崎林	富	26	仲	井	幹	28	森	康	祐	一	31	藤	掛	子	35	吉	川	喜	久	
11	三宅	喜啓	15	足中	立西	富龍	彦一	22	豊田	林田	宏	26	戸上	崎神	紀谷	28	増小	山藤	祐	子	31	藤	島	子	36	山	崎	節	子	
11	朝板	啓勅	16	中山	中山	健武	一	22	佐高	々々	木	26	高	井	一	28	加	林	一	子	32	藤	新	子	36	福	井	次	郎	
11	橋場	信弘	16	山篠	利生	利淑	子	22	丸西	々々	富	26	榎	石	光	28	杉	木	子	子	32	藤	高	子	37	江	関	和	敏	
11	瀬	行一	16	野口	子子	子子	子	22	張我	川富	妻	26	三	井	志	28	難	波	次	夫	32	藤	中	子	37	開	威	博	夫	
11	嶋植	新美	16	上田	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	福	本	和	28	鈴	木	次	夫	32	藤	伊	子	37	樋	子	文	隆	
11	植上	ミ	16	石大	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	神	居	八	28	高	野	孟	昌	32	藤	内	子	37	金	正	秀	美	
11	甲井	リ	16	下大	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	安	矢	和	28	宮	村	昌	江	32	藤	小	子	37	直	正	秀	美	
11	石船	る	17	川村	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	大	山	四	28	宮	村	昌	江	32	藤	小	子	37	根	正	秀	美	
11	青井	文	17	大下	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	楠	山	部	28	川	口	弘	子	32	藤	小	子	37	降	文	隆	夫	
11	穴井	敏	17	曾山	子子	子子	子	22	丸我	武尚	田	26	石	島	高	28	福	黒	子	子	32	藤	小	子	37	杉	山	秀	美	
11	曾山	津	17	山本	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	田	島	高	28	河	村	子	子	32	藤	小	子	37	高	山	秀	美	
11	山崎	康	17	中山	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	白	島	高	28	藤	村	子	子	32	藤	小	子	37	石	山	秀	美	
12	元川	弘	17	山本	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	鈴	島	高	28	河	村	子	子	32	藤	小	子	37	谷	山	秀	美	
12	石川	平	17	山本	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	高	島	高	28	江	川	夫	子	32	藤	小	子	37	中	真	山	秀	美
12	下藤	秀	17	山本	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	重	山	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	加吉	信	17	小高	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	中	大	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	吉美	昭	17	石内	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	大	伊	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	平橋	健	17	内野	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	伊	山	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	遠岡	昇	17	多鶴	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	大	室	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	岡正	雄	17	鶴権	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	江	石	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	渡諸	昇	17	富須	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	石	大	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	宮谷	美	18	須貝	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
12	安斎	勝	18	土屋	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	見藤	昭	18	丸山	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	澤原	昌	18	山今	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	島田	公	18	今根	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	渡小	義	18	根石	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	小吉	太	18	石熱	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	大井	收	18	熱島	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	村松	樹	18	島山	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	宅川	雅	18	山縣	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	五郎	英	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	竹中	生	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	藤原	千	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	立原	英	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	宮川	子	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	金刺	京	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	寶杉	綾	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	西村	英	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	福島	昭	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	倉倉	愛	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	森塚	ふ	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	平塚	ヤ	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	土肥	京	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	山縣	典	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	永依	友	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	依田	次	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	向三	勝	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	平野	愛	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	三木	京	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	木村	文	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	大城	米	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	安戸	健	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	今井	兼	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	大宇	俊	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	町田	英	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	柏平	誠	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小	子	37	山	加	中	真	山
13	磯正	重	18	山小	子子	子子	子	23	丸我	武尚	田	26	小	島	高	28	加	藤	夫	子	32	藤	小							